

- 1 日 時 平成30年9月14日(金)
- 2 学 年 第5学年(男子13名 女子15名 計28名)
- 3 単元名 「山・海・島」体験活動を通して気付いた、友達のできることを英語で伝えよう
<新教材 We Can!1 Unit5 She can run fast. He can jump high.
/Hi Friends!2 Lesson3 I can swim>

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説外国語編における英語(3)ウ「話すこと[やり取り]」(ウ)自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたり質問に答えたりして、短い会話をするができるようにする。」と(3)エ「話すこと[発表]」(イ)簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分や他者のことを伝えることができるようにする」を受けて設定した。

本単元は、児童が初めて三人称に出会う単元である。これまでの外国語活動において、一人称と二人称のみで思いを伝えてきた児童が、三人称を使って自分の身近な家族や友達のことを紹介することとなる。しかし、三人称単数形の動詞変化をここで扱うことは、児童にとって負荷が大きい。そこで、本単元では、can とともに扱うことで動詞変化を回避し、他者に配慮しながら、自分のことだけでなく、第三者のできることやできないことを尋ねたり答えたりする学習を行なう。また、友達とできることを認め合ったり、できないことについて共感し合ったりする場を効果的に仕組むことで、友達のことをより深く知る場にもなり、学習集団として学級がさらに高まることもねらうことができる。

また、ここでの学習は、第5学年の総仕上げとなるUnit9「Who is your hero?」において、自分が憧れたり、尊敬したりする人について、自分の考えを伝える学習に繋げることができる題材と言える。

(2) 児童観

本学級の児童は、外国語活動に対して意欲的に取り組むことができおり、楽しみながら活動している児童が多い。また、外国語について「できるようになりたい」「もっと知りたい」という思いをもっている。しかし、学習した表現を使ってペアトークやグループトークで自分のことを話したり、友達のことを聞いたりする際に、学習内容が理解できておらず、自信をもって表現することができにくい児童が教師の見立てとして10人いる。また、ペアトークやグループトークを行う際に、うなづくことはできているが反応の言葉を返したりすることに課題が見られる。

7月に行なったアンケート調査では、「外国語活動の学習は楽しいですか。」という項目で、肯定的な回答をした児童が100%(28人中28人)となった。一方で、肯定的な回答をした

児童のうち「どちらかといえば楽しい。」と回答した児童が29%（28人中8人）いる。その理由として、「活動は楽しいが、話していることが分からないことが多い。」「友達に話すときに、自信がない」といったことを挙げている。また、「外国語を使う場面を考えながら活動している。」という項目では、前に述べた29%の児童が、否定的な回答となった。「外国語についてもっと知りたい」と感じている児童は、92%（28人中26人）と高いことが分かった。

上記のアンケート結果から、本学級の児童は、外国語に対する興味・関心は高く、学習にも意欲的に活動することができているが、内容を理解できないまま学習が進むことで、自信をもって活動に取り組むことができていないと感じている児童もいることが分かり、場面や目的を理解して聞くことにも課題があると言える。

(3) 指導観

指導にあたっては、まず、10月の参観日で友達の得意なことと体験活動を通して気付いた、友達のできることをクイズにして英語で保護者に伝えるために学習していくという課題を設定する。英語を使う必然性のある発表の場を設定することで、学びへ向かう意欲を高めると同時に、自分たちが体験しできるようになったことの発表という視点から、主体的な活動に繋げることができると考える。

情報の収集の段階では、【教師の会話を聞く活動】を毎時間取り入れることで、単元の目標を達成するために本時に何を学ぶのかを明確にしていく。単元の目標を達成するための活動であることを明確にすること、主体的な学びへと向かうことができると考えるからである。また、授業の展開における前半は、場面を想像したり、目的に気付かせたりするために動作を表す表現や「can」「can't」を用いた表現を、繰り返し「見る」「聞く」「話す」場を設定する。黒板に貼られた動作を表す表現を見て、教師の発音を聞き、声に出して繰り返すことで知識・技能の基盤を形成していくことにも繋げることができると考える。さらに展開後半でペアトークやグループトークを活用しながら表現活動を取り入れていくことで、児童の本単元における語彙や表現の「慣れ親しみ」の充実を図ると同時に、「話すこと」によるコミュニケーションを行う際に欠かすことのできない「対話を続けるための基本的な表現」も意識させていく。

整理・分析・検証の段階では、情報の収集の段階で学んだことを生かし、チャンツを用いて英語のリズムや応答表現に親しませる。また、参観日での発表に向けて、「Who am I?クイズ」作りを行なう。クイズ作りでは、グループで協力し話し合いながら友達のできることを見つけたら、内容の確認をしたりすることで個の理解の確認と既習事項の定着も図る。

まとめ・創造・表現では、参観日での発表を行なう。この活動では、クイズに答えるだけでなく、学級全体で友達のできることを認め合ったり、できないことを共感し合ったり表現の出来を評価し合ったりすることで友達のことをより深く知る場とし、学習集団として学級を高めていくことに繋げる。また、発表後に自己評価と他者評価を肯定的に行なうことで、外国語で話すことへの自信をもたせたい。

5 単元の目標

- 他者に配慮しながら、自分や第三者ができることやできないことなどを紹介しようとする。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 動作を表す表現を言ったり、「できる」「できない」という表現を尋ねたり答えたりする。
【外国語への慣れ親しみ】
- できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを読んだり、相手に伝える目的をもって書いたりする。
【外国語への慣れ親しみ】
- 英語と日本語の語順の違いに気付く。【言語や文化に関する気付き】
- 活字体の文字とその音の関連に気付く。【言語や文化に関する気付き】

6 単元の評価基準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
○他者に配慮しながら、自分や第三者ができることやできないことなどを紹介しようとしている。	○動作を表す表現を言ったり、「できる」「できない」という表現を尋ねたり答えたりしている。 ○できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを読んだり、相手に伝える目的をもって書いたりしている。	○英語と日本語の語順の違いに気付いている。 ○活字体の文字とその音の関連に気付いている。

7 本単元において育成したい資質・能力

育成したい資質・能力	本単元の学習を通して目指す姿
主体性	進んで学習内容を理解しようと取り組み、相手に自分や第三者の できることやできないことを伝えようとしている。
コミュニケーション能力	他者に配慮しながら、英語やジェスチャーを用いて自分や第三者 のできることやできないことを伝え合っている。
チャレンジ精神	自信をもって、自分や第三者のできることやできないことを伝え ている。

8 使用表現・語彙

【主な使用表現】

- ・ Can you (sing well)? Yes, I can. / No, I can't.
- ・ [I/You/He/She][can/can't](sing well).

【主な使用語彙】

- ・動作(play[the recorder/the piano], play[baseball/soccer/badminton/kendama], do, swim, ride a [bicycle/unicycle], skate, jump high, sing well, cook, dance, run fast)

【繰り返しの使用表現・語彙】

- ・ I like (soccer)
- ・ Do you like (soccer)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (soccer).
- ・ 主な使用語彙と同様。

9 単元の学習指導計画（8時間）【6時間（45）+2時間（15分6モジュール）】

【モジュール学習 2時間（15分3モジュール×2）】

時	学習活動	評 価			
		コ	慣	気	評価規準 (評価方法)
モジュール① (単元前期)	<input type="checkbox"/> 文字には音があることに気付く。 <input type="checkbox"/> 自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりする。			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活字体の文字とその音の関連に気付いている。 (行動観察, 振り返りカード) ・ 動作を表す表現を言ったり, 「できる」「できない」という表現を尋ねたり答えたりしている。 (行動観察, 振り返りカード)
	A 【情報の収集】 <input type="checkbox"/> 【Jingle】 Animals Jingle (We can!1 P37 / P77) <input type="checkbox"/> 【Let's Play 2】 いろいろな動作を表す言葉を言ってみよう。(We can!1 P37)			○	
	B 【情報の収集】 <input type="checkbox"/> 【Jingle】 Animals Jingle (We can!1 P37 / P77) <input type="checkbox"/> 【Let's Play 1】 どの動物かを当てよう。 (We can!1 P34)			○	
	C 【情報の収集】 <input type="checkbox"/> 【Jingle】 Animals Jingle (We can!1 P37 / P77) <input type="checkbox"/> 【Let's Listen 1】 どの動物のことか, 男の子のことかを聞こう。 (We can!1 P36) <input type="checkbox"/> 【Let's Listen 2】 どの動物のことかを聞こう。 (We can!1 P36)			○	

モジュール② (単元後期)	○動作を表す表現を言ったり、「できる」「できない」という表現を尋ねたり答えたりする。		○	<ul style="list-style-type: none"> ・動作を表す表現を言ったり、「できる」「できない」という表現を尋ねたり答えたりしている。 ((行動観察, 振り返りカード))
	A	【情報の収集】 ○ 【Let's Watch and Think 2】 (通し視聴→対話の動画) 映像を見て, 登場人物ができることに○を, できないことに△をつけよう。 (We can!1 P38) ○ 【Let's Watch and Think 2】 (Satoshiの動画) 二人ができること・できないことについて□に書こう。		
	B	【情報の収集】 ○ 【Activity3】 友達にできること・できないことをインタビューし, □に巻末絵カードをおこう。 (We can!1 P39)		
	C	【情報の収集】 ○ 【Activity4】 友達や自分のできること・できないことを紹介しよう。 (We can!1 P39)		

時	学習内容	評価			
		コ	慣	気	評価規準 (評価方法)
1 本時	【課題の設定】 ○参観日で, 友達の得意なことと「山・海・島」体験活動を通して気付いた, 友達のことを英語で紹介するという単元のゴールイメージをもつ。 【情報の収集①】 ○動作を表す表現や「できる」「できない」という表現を知り, 言語にはそれぞれ違いがあることに気付く。 ※総合的な学習の時間に, 「山・海・島」体験活動での経験をもとに意見を出し合わせる。 ・[教師の会話を聞く活動]			○	<ul style="list-style-type: none"> ・動作を表す表現を言ったり、「できる」「できない」という表現を尋ねたり答えたりしている。 (行動観察, 振り返りカード)

	<p>「先生がどんな話をしているか聞いてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「動作を表す表現を知る。」 ・「映像に合わせて、できるという表現に親しもう。」 <p>[Activity] (オリジナル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分ができること、できないことを言ってみよう。」 ・「先生のできること、できないことを予想しよう。」 				
2	<p>【情報の収集②】</p> <p>○動作を表す表現や「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。</p> <p>○できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・「いろいろな動作を表す言葉を言ってみよう。」 ・「できることやできないことを表す表現を言ってみよう」 ・[教師の会話を聞く活動] 「先生がどんな話をしているか聞いてみよう。」 ・「できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知ろう。」 ・[Let's chant] (We Can!1 P35) 「Can you sing well?」 ・[Activity2] (We Can!1 P37) 「ペアの友達に尋ねたいことを5つ選び、できるか・できないかを予想してみよう。」 ・[Activity2] (We Can!1 P37) 「友だちにインタビューして、サインをもらおう。」 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・動作を表す表現を言ったり、「できる」「できない」という表現を尋ねたり答えたりしている。 <p>(行動観察, 振り返りカード)</p>
3	<p>【情報の収集③】</p> <p>○英語と日本語の語順の違いに気付く。</p>			○	<ul style="list-style-type: none"> ・英語と日本語の語順の違いに気付いている。

	<p>○できることなどについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを読んだり、相手に伝える目的をもって書いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いろいろな動作を表す言葉を言ってみよう。」 ・「できることやできないことを表す表現を言ってみよう」 ・[Let's chant] (We Can!1 P35) 「Can you sing well?」 ・[Let's Watch and Think] (We Can!1 P36) 「映像を見て、どの人物のことか考えよう。」 ・[教師の会話を聞く活動] 「先生がどんな話をしているか聞いてみよう。」 ・[Let's Listen] (Hi, friends!2 P11) 「さくら、たく、さゆりの会話を聞いて、できること、できないことを聞き取ろう。」 ・[write] 「できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を書いてみよう。」 		○	<p>(行動観察, 振り返りカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを読んだり、相手に伝える目的をもって書いたりしている。 <p>(行動観察, 振り返りカード)</p>
4	<p>【整理・分析・検証①】</p> <p>○友達の得意なことと、「山・海・島」体験活動を通して気付いた、友達のできることを、参観日で紹介するという課題解決に向け、既習事項や例文を参考に発表内容を話したり書いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[Let's chant] (We Can!1 P35) 「Can you sing well?」 ・[Let's Listen3] (We Can!1 P40) 「どの人物について紹介しているか聞き取ろう。」 ・「Who am I?クイズを作ろう。」 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを読んだり、相手に伝える目的をもって書いたりしている。 <p>(行動観察, 振り返りカード)</p>
5	<p>【整理・分析・検証②】</p> <p>○友達のできることやできないことなどを説明しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[Let's chant] (We Can!1 P35) 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に配慮しながら、自分や第三者ができることやできないことなどを説明しようとして

	「Can you sing well?」 ・「Who am I?クイズを作ろう」 ・「Who am I?クイズの発表練習をしよう。」				いる。 (行動観察, 振り返りカード)
	【まとめ・創造・表現①】 ※参観日に総合的な学習の時間を使って, 「山・海・島」体験活動の報告と「できること」の発表会を行なう。			○	・他者に配慮しながら,自分や第三者ができることやできないことなどを説明しようとしている。(発表, 行動観察)
6	【まとめ・創造・表現②】 ○単元全体の振り返りと確認テストを行なう。			○	・できることやできないことについて,音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを読んだり,相手に伝える目的をもって書いたりしている。 (行動観察, 振り返りカード, 確認テスト)

10 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・単元のゴールイメージをもつとともに,動作を表す表現や「できる」「できない」という表現を言えるようにする。

(2) 本時の評価規準

- ・動作を表す表現を言ったり,「できる」「できない」という表現を尋ねたり,答えたりしている。

【思考力, 判断力, 表現力等】

(3) 主な使用表現

- ・ Can you ~? Yes, I can. / No, I can't.
- ・ I can/can't~.

(4) 準備物

絵カード, ワークシート, 電子黒板

(5) 本時の学習展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点 (◇) ◆「努力を要すると判断した 児童への指導の手立て」	評価規準 (評価方法)
	1 挨拶をする。 ○How's the weather today? ○What's the date today? ○What day is it today? 2 「山・海・島」体験活動を通	◇はっきりとした声で,気持ちのよい挨拶を交わす。	

導入	<p>して、できるようになったことの一覧を提示し、教師のやり取りから単元のゴールイメージをもつ。</p> <p>【教師の会話を聞く活動】</p>		
	<p><u>[ティーチャートークの例]</u></p> <p>Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. I can./can't~. の表現が出てくる内容で、ジェスチャーや対話を続ける表現も交えながら尋ねたり、答えたりする。</p> <p>JALT: How was your stay in Kitahiroshima?</p> <p>HRT : It was great. I like cooking.</p> <p>HRT : Do you like cooking?</p> <p>JALT: Yes, I do. I like cooking.</p> <p>HRT : Can you catch fish?</p> <p>JALT: No, I can't. I can't catch fish. Can you catch fish?</p> <p>HRT : Yes. I can. I can catch fish. I can cook too.</p>	<p>◇英語を使う必然性のある場面設定をすることで、学びへ向かう意欲を高めさせる。</p>	
<p><u>Unit's goal</u></p> <p>友だちの得意なことと、「山・海・島」体験活動を通して友達ができるようになったことをクイズにして、参観日に英語で伝えよう。</p>	<p>◇Unit's goal を達成するための活動であることを明確にすることで、主体的な学びに向かえるようにさせる。</p>		
<p>4 本時のめあてを立てる。</p>	<p><u>Today's goal</u></p> <p>自分ができることやできないことを言ってみよう。</p>	<p>5 動作を表す表現を知る。</p> <p>○Repeat after me.</p>	
		<p>◇動作を表す絵カードを5つのグループに分けながら黒板に貼っていくことで、スポーツでも swim のように動詞だけで表現するものや do を使うもの、play を使うものや play the をつけるものがあることなどに気付かせる。</p>	

6 「できる」・「できない」という表現に親しむ。
○Please watch and repeat.

7 写真に合わせて、自分ができること、できないことを言う。

◇映像に合わせて「できる」という表現を繰り返し練習しながら親ませた後で、「できない」という表現に親しませることで、「できる」「できない」の表現の違いを意識付けさせる。

◇最初に、教師がデモンストレーションを見せ、次に児童に教師バージョンで声に出して練習されることで、自信をもって言えるようにさせる。

◆理解が不十分で自信をもって話すことができていない児童のそばで一緒に言うなどして支援を行う。

【慣】
動作を表す表現を言ったり、「できる」「できない」という表現を聞いたり言ったりしている。
(行動観察、振り返りカード)

【Demonstration】
映像に合わせて HRT と JALT が交互に「できる」「できない」を伝えた後で児童に質問し、答えさせる。
HRT: I can play~. How about you?
JALT: I can't play~

8 先生のできることやできないことを予想して答える。

◇先生のできること・できないことに関する映像を見せることで、表現への関心を高める。

◇ワークシートを用意し、予想させた後で、映像を見させ、答えを確認させる。

[オリジナルムービー]
HRT: Hello! Shintaku sensei.
Mr.Shintaku: Hello! Nakagawa sensei.
HRT: Can I ask some question?
Mr.Shintaku: OK!
HRT: Can you play baseball?
Mr.Shintaku: Yes, I can. I can play baseball.
HRT: Can you swim?
Mr.Shintaku: No, I can't. I can't swim.
HRT: Can you do Kendo?
Mr.Shintaku: Yes, I can. I can do Kendo.
HRT: Can you play the piano?
Mr.Shintaku: No, I can't. I can't play the piano.
HRT: Thank you! Shintaku sensei. Good bye!
Mr.Shintaku: You're welcome. Good bye!

ま と め	<p>9 本時の活動を振り返り、挨拶をする。</p> <p>○Open your file. Please write review.</p>	<p>◇次時は、友達の「できること」「できないこと」について質問する表現を学習することを伝えることで、意欲付けとする。</p> <p>◇単元のゴールと今日のめあてを再確認し、ゴールとめあてに沿った振り返りが書けるようにさせる。</p>	
	<p>★目指す児童の姿（振り返り例）</p> <p>・動作を表すときの表現や「できる」「できない」の英語での言い方が分かった。参観日で友達のできることを紹介するクイズを行なうので、みんなにクイズの内容が伝わるようにこれからの学習も頑張りたい。</p>		
	<p>○That's all for today. Good bye.</p>		

(6) 板書計画

Unit's Goal
友だちの得意なことと、「山・海・島」体験活動を通して気付いた友達のできることを、クイズにして参観日に英語で伝えよう。

Today' Goal
自分ができることやできないことを言おう。

Friday

September

14th

Sunny

I can

I can't

+

動詞のみ		play ~		play the ~		do ~		その他	
絵	絵	絵	絵	絵	絵	絵	絵	絵	絵
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
絵	絵	絵	絵	絵	絵	絵	絵	絵	絵
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
文	文	文	文	文	文	文	文	文	文

ミニボード

<p>Today's schedule</p> <p>①ティーチートークと単元のゴール 設定</p> <p>②今日のめあて</p> <p>③表現に親しもう</p> <p>④アクティビティ</p> <p>⑤〇〇先生の〇〇</p> <p>⑥振り返り</p>
